

ユニット型特別養護老人ホームの実態調査について

独立行政法人福祉医療機構

福祉貸付部

はじめに

本報告書は、平成20年度独立行政法人福祉医療機構の融資制度を利用し、ユニット型特別養護老人ホームを整備した社会福祉法人を対象に実態調査を行い、回答結果を取りまとめたものです。

ユニット型特別養護老人ホームは、ホテルコストを入居者が負担しますが、居住性を追求すれば利用者負担の増額につながり、事業性を追求すれば個別的なケアの実現が難しくなります。居住性と事業性の両方のバランスを見ながら在宅に近い環境で、入居者一人ひとりの個性や生活リズムを尊重すると同時に他者との人間関係をも築きながら日常生活を営めるように介護できることが重要です。

今回、開設してから1～2年の事業運営が軌道に乗り始めるまでの状況がどのように推移しているのか、また、ハード・ソフトの両面での有用な点やここは見直したほうが良い点等の意見を取りまとめており、施設整備を検討される際の参考に役立てていただければ幸いです。

また、今回の実態調査にあたり、アンケートの協力、実地調査やヒヤリングにご協力頂いた各位に厚く御礼申し上げます。

2012年3月

独立行政法人 福祉医療機構
福祉貸付部

ユニット型特養の標準モデル

区分	平均値	中央値
建築関係		
1人あたり延床面積	51.7㎡	49.7㎡
1人あたり建築単価	1,177万円	1,130万円
㎡あたり建築単価 (坪あたり建築単価)	22.9万円 75.5万円	22.5万円 74.3万円
1人あたり借入単価	849万円	874万円
運営関係		
特養の稼働推移		
1か月	69.3%	67.2%
3か月	89.5%	96.6%
6か月	96.9%	100.0%
9か月	97.6%	100.0%
1年	97.9%	100.0%
1年～2年以内	98.9%	100.0%
ショート稼働推移		
1か月	23.6%	22.2%
3か月	43.9%	47.0%
6か月	60.9%	67.0%
9か月	69.5%	75.0%
1年	70.5%	70.0%
1年～2年以内	78.1%	80.0%
デイサービスの稼働推移		
1か月	22.5%	16.0%
3か月	33.7%	39.1%
6か月	43.7%	47.1%
9か月	48.5%	46.7%
1年	55.8%	50.0%
1年～2年以内	62.4%	72.8%
1人あたり経営資金単価	99万円	97万円
第4段階以上の割合		
特養	27.2%	23.9%
ショート	52.6%	50.0%
ホテルコスト(1日あたり)		
特養	2,422円	2,000円
ショート	2,513円	2,125円
要介護度		
特養	3.6	3.7
ショート	3.1	3.0
デイサービス	2.3	2.3
人材関係		
介護職員の配置割合		
介護職員(3年経験未満)	38.2%	—
介護職員(3年経験以上)	37.4%	—
介護職員(パート常勤換算)	13.5%	—
看護職員(常勤換算)	10.9%	—
配置基準	1.8:1	1.8:1

平均値:母数の全ての値を平らにしたときの値を示す。

中央値:母数を一列に並べて上(下)から数えて真ん中の順位になる値を示す

目次

第1章 実態調査の背景と目的

- 1. 実態調査の背景と目的・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
- 2. 調査結果の報告の手順・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1

第2章 施設整備の概要（指標編）

- 1. 施設に関わる各種指標
 - ①定員分布・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2
 - ②ユニット施設機能別面積・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3
 - ③1人あたり延床面積・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3
 - ④1人あたり建築単価・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3
 - ⑤㎡、坪あたり建築単価・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4
 - ⑥1人あたり借入単価・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4
 - ⑦1人あたり経営資金単価（見込み/実績）・・・・・・・・ 5
 - ⑧資金計画の構成割合・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5
- 2. 稼働状況
 - ①各時点の稼働状況（施設別一時点別）・・・・・・・・・・ 6
 - ②稼働分布状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 6
 - ・特養ユニット一時点別・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 6
 - ・ショート一時点別・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 6
 - ・デイサービス一時点別・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 6
 - ③平均要介護度・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 7
 - ④第4段階以上の平均割合と1日あたり平均ホテルコスト・・ 7
- 3. 職員の状況
 - ①介護職員の配置割合・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 7
 - ②平均配置基準・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 7

第3章 施設整備の概要（アンケート編）

- 1. ハード面に関すること
 - ①建築単価の適正について・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 8
 - ②設備、構造面で配慮したこと・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 9
 - ③他施設を参考にしたこと・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 10
 - ④処遇上、有効だったこと・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 11
 - ⑤処遇上、不必要だったこと・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 12
 - ⑥入所者にとって有効だったこと・・・・・・・・・・・・・・・・ 12
 - ⑦地域交流スペースの設置状況等・・・・・・・・・・・・・・・・ 14
 - ⑧行政指導等で整備したこと・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 14

⑨居室内トイレについて	15
⑩居室外トイレについて	15
⑪その他アピールポイント	16
2. ソフト面に関すること	
①職員配置の考え方とその理由	18
②食事提供方法について	18
③衛生管理体制について	19
④入浴利用について	20
⑤既に従来型特養の運営を行い、新たにユニット型特養を整備して 処遇上で変化した点について	20
3. その他	
①施設のアピールポイント	21
②職員のモチベーションを上げる為に実践していること	21
③協力病院との契約事項	22
④個室面積の広さについて	22

第1章 実態調査の背景と目的

1. 実態調査の背景と目的

ユニット型特別養護老人ホームについては、平成15年度に創設され、各自治体が地域の実情に応じて整備を進めている中で、当機構においても支援しているところであります。

当機構の資金は、融資を通じて介護基盤の整備が推進されることとともに事業者が提供する利用者サービスの質的な向上を図ることを目的とし、施設整備にあたっては、計画の融資相談を充実させ社会福祉法人が安定的に経営され、長期に亘り利用者サービスが確保できるよう多面的に支援を行っております。

今回の調査では、当機構の資金をご利用いただき施設を開設された社会福祉法人を対象に、ユニット型特別養護老人ホームの状況や、実際に建ち上げに携わった経験から得た貴重なご意見を参考に今後、当機構の資金がより一層利用者サービスの質の向上に貢献できるよう改善していくことを目的としております。

2. 調査結果報告の手順

実態調査は、平成20年度に当機構の融資制度を利用した特養ユニット施設の整備概要、稼働状況、職員の状況、ハード面、ソフト面について等、あらゆる面から調査を実施し、とりまとめました。

なお、平成20年度に当機構の融資制度を利用した特養ユニット施設数111件中64件の回答をいただきましたので、その内容をとりまとめております。

2章 施設整備の概要（指標編）

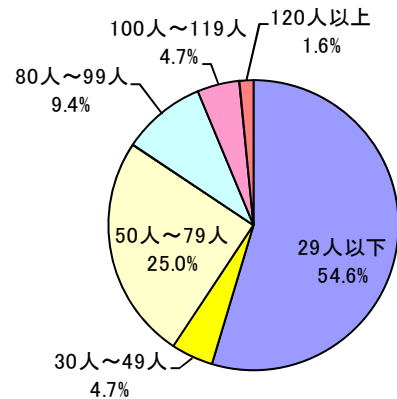
分析に用いたデータは、64件です。

1. 施設に関わる各種指標

①定員分布

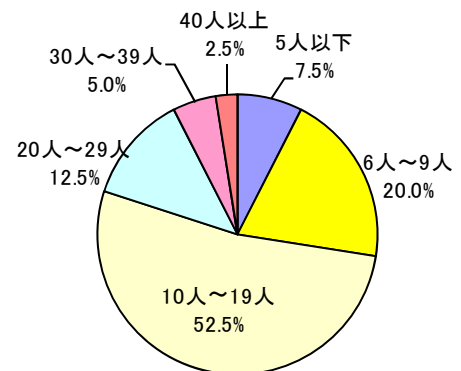
特養ユニット

	施設数	割合
29人以下	35件	54.6%
30人～49人	3件	4.7%
50人～79人	16件	25.0%
80人～99人	6件	9.4%
100人～119人	3件	4.7%
120人以上	1件	1.6%
	64件	100.0%



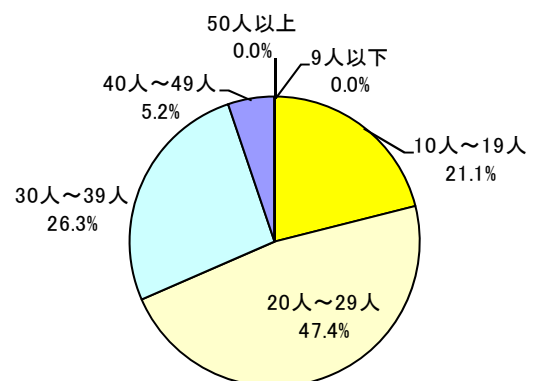
併設ショート

	施設数	割合
5人以下	3件	7.5%
6人～9人	8件	20.0%
10人～19人	21件	52.5%
20人～29人	5件	12.5%
30人～39人	2件	5.0%
40人以上	1件	2.5%
	40件	100.0%



併設デイサービス

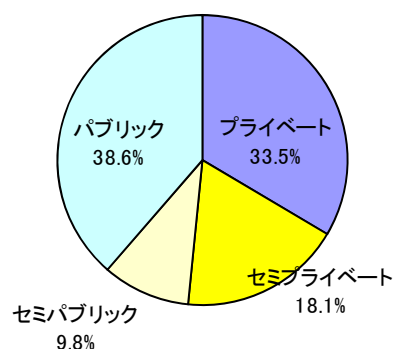
	施設数	割合
9人以下	0件	0.0%
10人～19人	4件	21.1%
20人～29人	9件	47.4%
30人～39人	5件	26.3%
40人～49人	1件	5.2%
50人以上	0件	0.0%
	19件	100.0%



②ユニット施設機能別面積

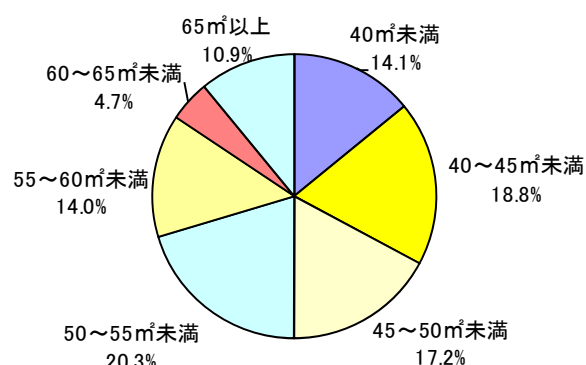
※併設がある場合は、面積按分により特養ユニットのみの面積から割合を算出

ユニット施設機能	割合
プライベート	33.5%
セミプライベート	18.1%
セミパブリック	9.8%
パブリック	38.6%
	100.0%



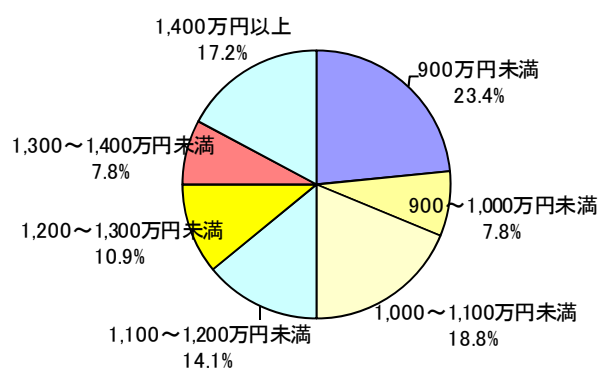
③1人あたり延床面積

	施設数	割合
40㎡未満	9件	14.1%
40～45㎡未満	12件	18.8%
45～50㎡未満	11件	17.2%
50～55㎡未満	13件	20.3%
55～60㎡未満	9件	14.0%
60～65㎡未満	3件	4.7%
65㎡以上	7件	10.9%
	64件	100.0%
平均値	51.7㎡	
中央値	49.7㎡	



④1人あたり建築単価

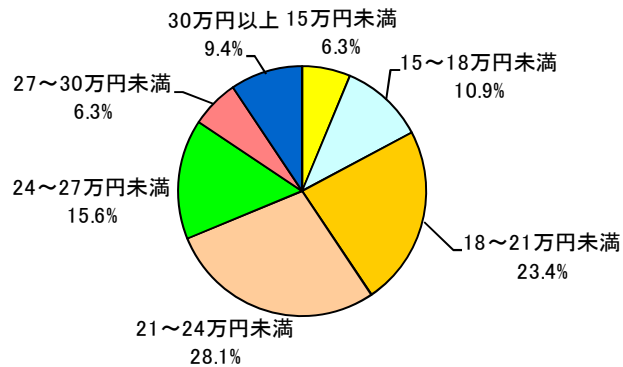
	施設数	割合
900万未満	15件	23.4%
900～1000万未満	5件	7.8%
1000～1100万未満	12件	18.8%
1100～1200万未満	9件	14.1%
1200～1300万未満	7件	10.9%
1300～1400万未満	5件	7.8%
1400万以上	11件	17.2%
	64件	100.0%
平均値	1,177万円	
中央値	1,130万円	



⑤㎡あたり建築単価

15 万未満	4 件	6.3%
15～18 万未満	7 件	10.9%
18～21 万未満	15 件	23.4%
21～24 万未満	18 件	28.1%
24～27 万未満	10 件	15.6%
27～30 万未満	4 件	6.3%
30 万以上	6 件	9.4%
	64 件	100.0%
平均値	22.9 万円	
中央値	22.5 万円	

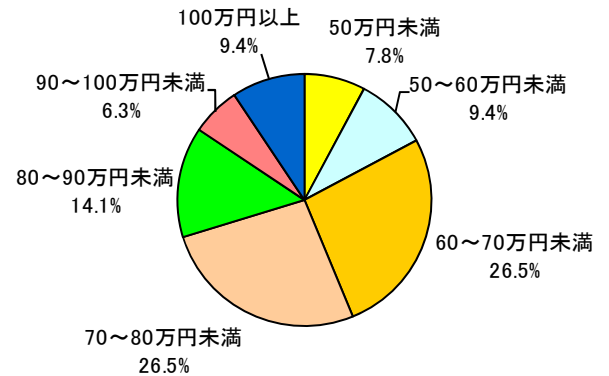
<㎡単価>



・坪あたり建築単価

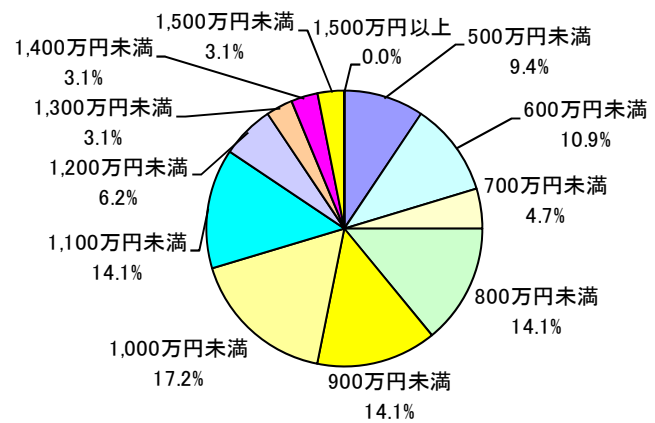
50 万未満	5 件	7.8%
50～60 万未満	6 件	9.4%
60～70 万未満	17 件	26.5%
70～80 万未満	17 件	26.5%
80～90 万未満	9 件	14.1%
90～100 万未満	4 件	6.3%
100 万以上	6 件	9.4%
	64 件	100.0%
平均値	75.5 万円	
中央値	74.3 万円	

<坪単価>



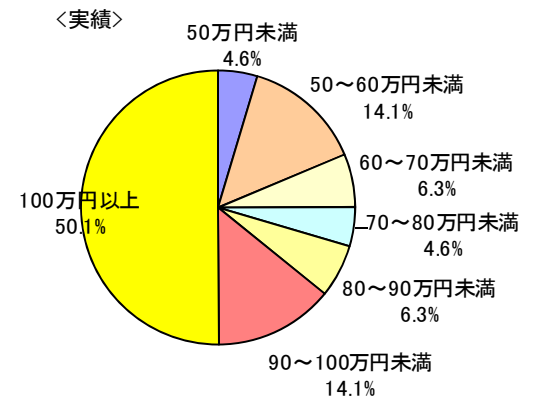
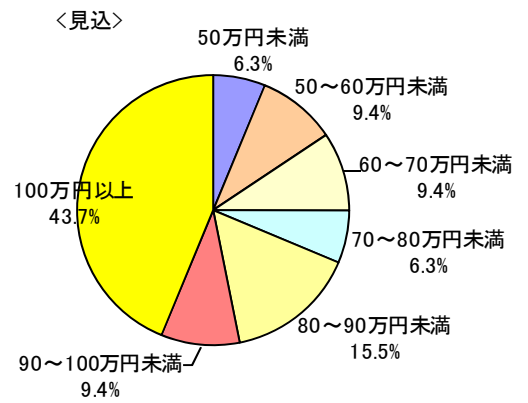
⑥1人あたり借入単価

	施設数	割合
500 万未満	6 件	9.4%
500～ 600 万未満	7 件	10.9%
600～ 700 万未満	3 件	4.7%
700～ 800 万未満	9 件	14.1%
800～ 900 万未満	9 件	14.1%
900～1000 万未満	11 件	17.2%
1000～1100 万未満	9 件	14.1%
1100～1200 万未満	4 件	6.2%
1200～1300 万未満	2 件	3.1%
1300～1400 万未満	2 件	3.1%
1400～1500 万未満	2 件	3.1%
1500 万以上	0 件	0.0%
	64 件	100.0%
平均値	849 万円	
中央値	874 万円	



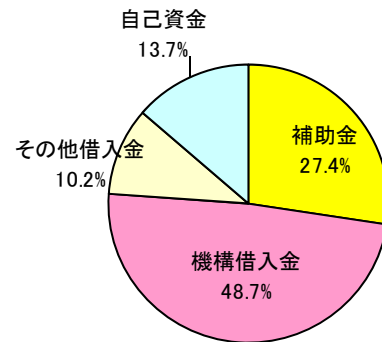
⑦ 1人あたり経営資金単価

	見込み	実績
50万未満	6.3%	4.6%
50～60万未満	9.4%	14.1%
60～70万未満	9.4%	6.3%
70～80万未満	6.3%	4.6%
80～90万未満	15.5%	6.3%
90～100万未満	9.4%	14.1%
100万以上	43.7%	50.0%
	100.0%	100.0%
平均値	94万円	99万円
中央値	91万円	97万円



⑧ 資金計画の構成割合

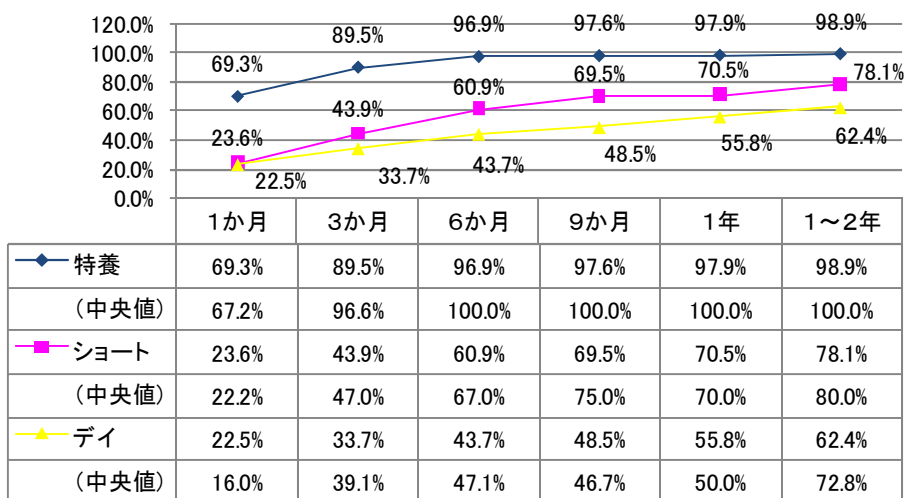
資金計画内訳	割合
補助金	27.4%
機構借入金	48.7%
その他借入金	10.2%
自己資金	13.7%
	100.0%
(平均値)	
建築資金 7.1億円 定員 61.1人	



2. 稼働状況

①各時点の稼働状況

稼働状況(施設別一時点別)



②稼働分布状況

・特養ユニット一時点別

	1か月	3か月	6か月	9か月	1年	1年～2年
25%未満	3.1%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
25～50%未満	15.6%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
50～70%未満	34.4%	12.5%	1.6%	1.6%	0.0%	0.0%
70～80%未満	6.3%	7.8%	0.0%	0.0%	1.6%	0.0%
80～90%未満	7.8%	17.2%	6.3%	3.1%	3.1%	1.6%
90～95%未満	4.7%	6.3%	10.9%	7.8%	9.4%	12.5%
95%以上	28.1%	56.3%	81.3%	87.5%	85.9%	85.9%

・ショート一時点別

	1か月	3か月	6か月	9か月	1年	1年～2年
25%未満	53.8%	35.9%	10.3%	2.6%	0.0%	0.0%
25～50%未満	33.3%	17.9%	23.1%	17.9%	20.5%	12.8%
50～70%未満	7.7%	17.9%	17.9%	17.9%	25.6%	15.4%
70～80%未満	2.6%	12.8%	12.8%	15.4%	7.7%	15.4%
80～90%未満	2.6%	15.4%	20.5%	25.6%	23.1%	23.1%
90～95%未満	0.0%	0.0%	7.7%	7.7%	12.8%	7.7%
95%以上	0.0%	0.0%	7.7%	12.8%	10.3%	25.6%

・デイサービス一時点別

	1か月	3か月	6か月	9か月	1年	1年～2年
25%未満	57.9%	31.6%	21.1%	5.3%	5.3%	10.5%
25～50%未満	36.8%	36.8%	36.8%	52.6%	26.3%	5.3%
50～70%未満	5.3%	31.6%	31.6%	26.3%	31.6%	31.6%
70～80%未満	0.0%	0.0%	5.3%	10.5%	26.3%	21.1%
80～90%未満	0.0%	0.0%	5.3%	5.3%	10.5%	21.1%
90～95%未満	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	10.5%
95%以上	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%

③平均要介護度

	特養ユニット	ショート	デイサービス
平均要介護度	3.6	3.1	2.3
(中央値)	3.7	3.0	2.3
(最大値)	4.7	4.2	3.0
(最小値)	2.5	2.4	1.6

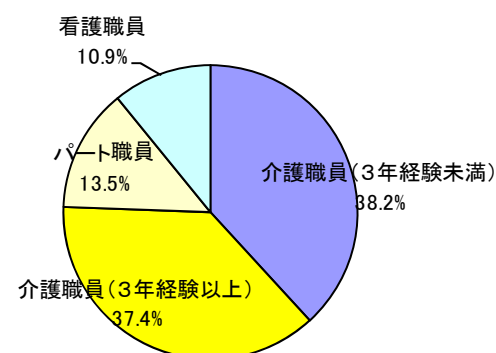
④第4段階以上の平均割合と1日あたり平均ホテルコスト

	特養ユニット	ショート
第4段階以上	27.2%	52.6%
(中央値)	23.9%	50.0%
(最大値)	100.0%	100.0%
(最小値)	3.0%	5.0%
ホテルコスト	2,422円	2,513円
(中央値)	2,000円	2,125円
(最大値)	4,780円	4,780円
(最小値)	1,970円	1,970円

3. 職員の状況

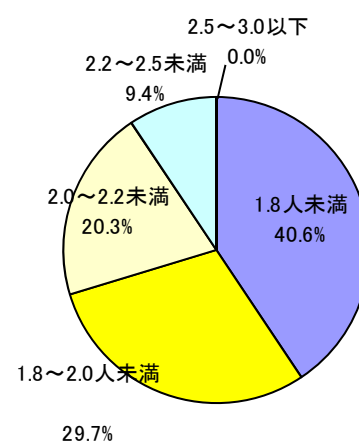
①介護職員の配置割合

	割合
介護職員(3年経験未満)	38.2%
介護職員(3年経験以上)	37.4%
介護職員(パート常勤換算)	13.5%
看護職員(常勤換算)	10.9%
	100.0%



②平均配置基準

	件数	割合
1.8人未満	26件	40.6%
1.8~2.0人未満	19件	29.7%
2.0~2.2人未満	13件	20.3%
2.2~2.5人未満	6件	9.4%
2.5~3.0人以下	0件	0.0%
	64件	100.0%
平均配置割合		1.8 : 1
中央値		1.8 : 1



第3章 施設整備の概要（アンケート編）

分析に用いたデータは、64件（回答数は複数回答を含む）です。

1. ハード面に関すること

①建築単価の適正について（回答数56件）

	件数	理由
適正と認識	39件	<ul style="list-style-type: none"> ○フロアを複数（2ユニット又は4ユニット）で構成し、勤務体制に配慮しつつ、動線を短くすることで延床面積を抑制した。（18件） ○事務室・施設長室などの処遇に直接関係のない部門を削り、ユニット間に食堂や浴室を配置することで、延床面積を抑制した。（10件） ○資材価格が高騰していた時期であったが、当初見込んでいた資材を使わず、支障がない資材に関して変更しコストを抑えた。（8件） ○建設用地の地形や面積から建物形状をシンプルな形とした。（3件）
高いと認識	8件	<ul style="list-style-type: none"> ○共用スペースを最小限とする等延床面積の抑制に努めたが、資材価格が高い時期であったため建築コストがかかった。（3件） ○敷地が細長く段差がある形状であったことやコンクリート杭工事が嵩む等建設地が要因となり、建築コストが高くなった。（3件） ○小規模施設のため、建築費用が割高になってしまった。（1件） ○フロアごとにホールをつくり、ユニット間の動線を長く設計したため、延床面積が広がった。（1件）
安いと認識	9件	<ul style="list-style-type: none"> ○フロアを複数（2ユニット又は4ユニット）で構成し、勤務体制に配慮しつつ、動線を短くすることで延床面積を抑制した。（5件） ○動線を最小限になるよう設計し、平家建にすることで廊下、エレベーターを整備しないことでコストを抑えた。（3件） ○鉄筋コンクリート造ではなく、鉄骨造とした。（1件）

②設備、構造面で配慮したこと（回答数 54 件）

○衝撃吸収に優れた床材や床暖房等を採用し、利用者に配慮した設計とした。(15 件)
○職員が使用するスペースを必要最低限に抑え、居室やトイレ等利用者が使用するスペースを広く取り入れた。(11 件)
○建築工法や空調設備等を工夫し、コスト削減に努めた。(9 件)
○オール電化や省エネ設備を採用し、ランニングコストの削減に努めた。(7 件)
○出来る限り施設感をなくし、和風の家らしくゆったりと過ごしてもらえるようにした。(4 件)
○職員が見渡ししやすい平面計画・回廊型とし、施設内のどの場所からも 2 方向避難できるようにした。結果として、建物が四角形となり建築コストを削減できた。(3 件)
○耐震性の確保、スプリンクラーの設置、災害時の避難・避難誘導がしやすい設計等災害時に対応した施設とした。(3 件)
○プライバシー確保の観点から、全個室にトイレ・洗面台を配置した。(2 件)

③他施設を参考にしたこと（回答数 49 件）

○自然採光を取り入れられるような居室設計をした。(13 件)
○利用者やスタッフの動線を重視した設計に努めた。(10 件)
○今まで住みなれた家の延長線上での住まい作りを目指し、木材を基調とした生活感のある空間を演出するように設計した。(5 件)
○トイレ内の事故防止のため、手すりの設置や便器の側面と前面に上下スライド対応の柵を設置した。(3 件)
○クッション性のある床シートや床暖房を取り入れ、居心地がよくなるように設計した。(2 件)
○1 階部分（又は最上階）に庭園を造り、季節感を感じられ、外でも楽しめる空間づくりを意識した設計とした。(2 件)
○外壁の色についていろいろな施設を参考にし、高齢者施設とのイメージを出さないように配慮した。(2 件)
○インフルエンザ対策及び冬季における加湿に対する職員の負担軽減として、各居室に独立した加湿可能なエアコンを設置した。(2 件)
○ユニット入口に玄関スペースを設け、自宅に近づける設計とした。(2 件)
○ユニット内床下にコルクを入れ、吸収性のある床にすることで利用者の転倒事故防止及び職員の負担軽減ができた。(1 件)
○調理室や洗濯室、ごみ置き場等「ニオイ、熱、音」等の迷惑設備をつくらず、既存施設との連携や外部委託業者の活用などを取り入れた。(1 件)
○ベランダからの避難通路を周回できる構造として災害時の対応を容易にした。(1 件)
○職員の使い勝手よりもご利用者の使い勝手や住みやすさを重視した。(1 件)
○洗濯場を脱衣所の横に設置する。共同スペースを広く取り、全体が集える場を設定し、ユニットが孤立しないように配慮する。(1 件)
○オール電化を取り入れた。(1 件)
○既設の同種特養が使用頻度の少ない会議室などを広く取り過ぎて持て余していたので、会議室の面積は最低限に抑えた。(1 件)
○当初考えていた個浴と半機械浴のそれぞれの設置台数を、他施設を見学したことで変更した。利用者の ADL の状態でニーズを捉え、バランスよく配置できた。(1 件)

④処遇上、有効だったこと（回答数 55 件）

○ユニットごとに設置した個浴と、フロアごとに特殊浴槽を設置したことにより、利用者の状態にあわせ安全でゆったりとした入浴が可能となった。(19 件)
○各ユニット毎に個浴を設置したことで、入居者の生活リズムに合わせた入浴が楽しめるようになった。(10 件)
○入所者の共同スペースを広く確保したことで、ゆったりと過ごせるほか、入所者の生活ペースに合った処遇が出来るようになった。(5 件)
○居室ごとに洗面台、トイレを設置したことで、入所者のプライバシーの確保や生活リズムに合わせる事ができるようになった。(4 件)
○各ユニットにトイレを3つずつ配置し、混雑する時間帯での待ち時間が無くなった。(3 件)
○1フロアを偶数ユニットで構成したことにより、介護職員及び看護職員の動線が抑えられ、見守り強化が可能となった。(2 件)
○近くに公園など活用できる環境にないため、屋上に展望サロンを設置したが、気分転換に多くのご利用者が屋上庭園を活用されている。(2 件)
○コンパクトな設計としたため、居室・共用部ともできるだけモノを置かないようにして動線をさまたげないようにした。(2 件)
○リビングだけでなく、全居室に除菌・脱臭機を設置したので、便臭等もなく、開設以来、インフルエンザやノロ等の発生がない。(1 件)
○馴染みのある昔ながらの茶ダンス等の家具を配置することで、認知症の方でも安心して過ごせる環境づくりができた。(1 件)
○壁面や各コーナーにカバーを設置。車椅子やワゴンの移動で接触しても傷がつかないようになった。(1 件)
○リビングを広めに設定したことで、食事以外にもある程度の場所を必要とするレクレーションやユニット内での個別機能訓練に取り組むことが出来た。(1 件)
○各ユニットに台所を設け調理員が調理をすることで、見守りなどしてもらい事故の軽減につながった。(1 件)
○各ユニットにオープンキッチンを設けることで、調理の音や匂い等を感じられる事で、食事への関心や、おおよその時間を認識してもらう事ができた。(1 件)
○各居室トイレ内に前かがみになっても倒れないように特殊な上げ下げ可能な手摺を設置。(1 件)
○床については、転倒しても衝撃が少なくなるタイプを選択した。(1 件)

⑤処遇上、不必要だったこと（回答数 29 件）

○当初の目的で設置した部屋・部門が使われず、違う目的で使用されている。（介護スタッフ室→物置 等）（9 件）
○ホールが広すぎた。冷暖房コストもかかるし、スタッフの目が届きにくい。（3 件）
○各ユニットにシャワー室を設置してあるが、入浴は浴室をメインで利用するので稼働率が低い。（3 件）
○機械浴室にトイレを設置したが、実際には機械浴を利用される方でトイレを使用可能なケースはなく、不必要なものになってしまった。（2 件）
○居室に備付けの家具を設置したが、利用者により場所の問題、又持ち込みしたい利用者もいる為。（2 件）
○廊下幅が広すぎ建築コストに影響したり、他の居室面積が十分にとれなかった。（2 件）
○キッチン用品の危険防止のため、スライディングウォールでキッチンを囲うことが出来るようにしたが、特養の場合利用の機会がなかった。しかし、ショートステイでは活用している。（1 件）
○1 階にレクリエーション施設として「シアタールーム」を設置したが、入居者の誘導又は使い勝手が煩雑で利用する方が少なく、工夫が必要だった。（1 件）
○各ユニットに洗濯機を設置していたが、それ以外に洗濯室を最上階に作ったが、動線が長くなり利用していない。（1 件）
○設置基準上、玄関入口に点字ブロックがあるが、車椅子または歩行ともにつまづき等の段差障害となっている。利用者の安全を考え、手すりを取り付けたが、一部不必要な場所もあった。（1 件）
○介護ベッドを 2 種類用意したが、使いづらいベッドは使用しない傾向にある。（1 件）
○今次計画では、介護職員とも協議しながら「設備上のムダを無くす」ことに徹したので、特に不必要だと思われる設備はなかった。（1 件）
○足りないことはあっても、不必要なことはなし。（1 件）
○木製のドアが多いが、歩行が不安定な方や車椅子の方がぶつかった際に壊れやすくなっている。（1 件）

⑥入所にとって有効だったこと（回答数 54 件）

○居室、トイレ等のドアを吊り戸にし、入り口の段差をなくしたことにより、車いすでも利用者がスムーズに出入りできた。手すりを多く設置することで、自立支援になった。（16 件）
○各居室のトイレに肘掛を設置したので、座位保持が保てるようになった。（5 件）
○共同生活室をできるだけ広く取ることで、入居者がゆったりとした雰囲気の中で生活を送れるようにできた。（4 件）
○利用者居室の洗面台の下の収納を無くし足だけにすることで、車イス利用者がテーブルの様に入る事が出来て ADL 維持に活用できた。（3 件）
○備えつけの家具をあえて置かないことにより、家具を持ち込み家庭的で自分の居場

所の確保が出来たこと。(3件)
○個浴を各階に配置し、半機械式の浴槽を取り入れたことで職員の負担や事故リスクの軽減に繋がった。(3件)
○浴室に空調を設置することで、入浴時の快適な環境が作りやすい。天候が悪い時には洗濯ものを干すこともできる。(3件)
○床暖房を設けた為、温度差がなく快適に入浴できた。(2件)
○採光のこともあって、大きな中庭を造ったが、そこで花火をしたり、気候の良い時はお茶をしたり、昼食をとったり、メダカを育てたりして入居者に喜ばれている。(2件)
○車椅子の通るスペースは平坦なフロアとした。(3件)
○各ユニットを個室とした為、入所者のプライバシーは守られ、又入所者同志の交流も居間、食堂で十分に計られる。(1件)
○各ユニット玄関を設え、その中間点に理美容室を設け目的により施設に居ながらにして外出の雰囲気を楽しむことと気分転換をすることができた。(1件)
○カードキーを導入することにより、面会者は受付を済ませた後はフロアを自由に行き来できるようになっており、同時に利用者の安全を確保しやすくなっている。(1件)
○回廊型でユニットが繋がれていることで、入居者がユニット間を自由に移動でき、交流が進んだ。(1件)
○居室は個別のエアコンとしたため、個室ごとに室温管理ができるようになった。(1件)
○対面キッチンに入居者(車椅子)が使用できる流し台を設置したことで、自分で食器を洗ったり、米とぎ等の役割が出来て良かった。テーブルや椅子も高さの違うものを何種類か用意したので、入居者に合わせる事ができた。(1件)
○居室に棚があり、タンスに入らない物が収納できる。(1件)
○平家の設計となっており、車椅子の入所者がユニット間や外への出入りが自由に行えること。会議室やステージ付きのホールを造らず、喫茶店風の交流ホールを造ることで日常的に入所者が思い思いの時間を過ごす場になっている。(1件)
○階高を下げる目的もあって、従来の特別養護老人ホームより1階2階とも天井を低くした。このことにより「病院的」とか「施設臭さ」といった従来の特養の短所が解消され、ご家族には「こじんまりしている」「家庭的」「温かい感じがする」などの感想を頂戴している。(1件)
○フロアを2ユニットであり動線を短く抑えた分、各フロアの浴室が近く、自立歩行が可能な方は自由に行き来できる。(1件)

⑦地域交流スペースの設置状況等

設置・未設置（回答数 64 件）
○設置（38 件）
○未設置（26 件）
使用頻度（回答数 38 件）
○月 1 回以上（12 件）
○月 1 回程度（4 件）
○年 6 回程度（8 件）
○年 3 回程度（12 件）
○ほとんど利用していない（2 件）
設置理由（回答数 38 件）
○地域住民との交流やクラブ活動等を行う場所を提供するため。（21 件）
○ボランティア団体等の受け入れのため。（7 件）
○公募要件（災害拠点等）であったため。（4 件）
○運営推進会議や地区の総会等の開催場所として提供するため。（4 件）
○2 級ヘルパー講座等教育研修会を開催するため。（2 件）

⑧行政指導等で整備したこと（回答数 13 件）

○手摺の位置を増やした。実際には使えない場所にも取り付けることになった。（1 件）
○障害部門との合築だが、玄関はそれぞれに設けるよう依頼があった。（1 件）
○国定公園に敷地がかかり、建物面積が充分取れなかった。（1 件）
○（癌などが原因で）直腸や膀胱に機能障害を持つ利用者の方が便や尿を溜めておくためのストーマ装具（パウチ）を洗浄する等の際に便利な汚物流しセットを整備した。（1 件）
○トイレの常夜灯を指摘され後から追加で付けなければいけなくなった。（1 件）
○県の指導により、ユニットの裏口からの避難時に必要な段差スロープを設置した（取り外し可能）（1 件）
○各ユニット 3 室に居室内にトイレを設置した。消防署よりの依頼により、100トンの消防水利を設置した。（1 件）
○パブリックスペース 内のトイレ設置（1 件）
○地域の整備計画に合わせ調整池を施設の隣に設置した。（1 件）
○土地の開発、開発負担金、農転、近隣の土地の測量、県道の幅を測定し道路との堺を決定、排水に係る工事（測量、排水管の設置、排水する河川組合への負担金、）、埋蔵文化財の保存、トイレを居室 2 に対し 1 か所外部に作ったほうが良い。（1 件）
○地域交流スペースのトイレの数（2 箇所）に 6 個）（1 件）
○1 ユニットに浴槽を必ず設置との指導、宿直員を置く事に伴い、宿直室の設置。（1 件）
○各ユニットのトイレの数の考え方に差があり結局は 1 ユニットに 5 個のトイレを設置となったこと。（1 件）

⑨居室トイレについて

設置・未設置（回答数 64 件）
○設置（29 件）
○未設置（35 件）
良かった点（回答数 27 件）
○個人のプライバシーが保護される。（17 件）
○自立が促しやすい。（6 件）
○利用者の生活のリズムに合わせることができる。（待ち時間がない）（2 件）
○衛生保持が容易。（1 件）
○ポータブルトイレと違い、臭いが残らない。（1 件）
悪かった点（回答数 19 件）
○掃除等アフターケアに手がかかる。（7 件）
○転倒等のリスクが高い。（4 件）
○排泄状況の確認が困難。（4 件）
○トイレのドアをカーテンにしたかったが、行政指導によりドアとなり、上腕の麻痺者には介助が必要になる。（1 件）
○自立排泄の可能な方の入所に限定される。（1 件）
○使わない利用者トイレがある。（1 件）
○各居室で排泄ケアをするため、人員効率面は悪くなっている。（1 件）

⑩居室外トイレについて

設置・未設置（回答数 64 件）
○設置（43 件）
○未設置（21 件）
良かった点（回答数 40 件・複数回答あり）
○職員の目が届きやすく、転倒等のリスクが軽減される。（21 件）
○排泄状況を把握しやすい。（4 件）
○排泄時の訴えに対し、すぐに対応できる。（居室に戻らなくて良い）（4 件）
○トイレ内の面積を大きく取ることができ、車椅子での移動が容易。（3 件）
○介助がしやすい。（2 件）
○各室にトイレを設置すると、居室が狭くなるため、3 部屋に 1 か所とした。（1 件）
○各ユニットにトイレを 3 か所ずつ設置したことで、混雑がなくなった。（4 件）
○夜間帯も職員が誘導するため、目の届かない居室での事故が抑制されている。（1 件）
○介護度が高い利用者が多く、各居室に設置するのは非効率（1 件）
○ユニット内の移動距離が少ないため、職員の負担が軽減される。（1 件）
○既存施設の経験から各居室内のトイレは不要（建築コストがかかる）（1 件）

悪かった点（回答数 24 件:複数回答あり）
○一度に多くの利用者は使用できない。(7 件)
○プライバシーが保護されない。(5 件)
○ポータブルトイレを用意しなければならなくなった。(2 件)
○清掃等に時間を要する。(2 件)
○夜間の使用時には、足音等の物音で睡眠が妨げられる。(2 件)
○夜間使用時の転倒事故の危険がある。(2 件)
○居室に戻らなくても良いが、排泄に間に合わないことがある。(1 件)
○共用のため、衛生面により注意が必要。(1 件)
○縄張り意識をもつ利用者とトラブルになることがある。(1 件)
○リビングから近いため臭いが漏れやすい。(1 件)

⑪その他アピールポイント（回答数 44 件）

○庭園や中庭をつくる等風光明媚な景色を眺められるような設計とした。(14 件)
○すべて日当たりのよい居室となるよう設計を工夫した。(5 件)
○施設全体や床、ベッド、カーテン、椅子等を統一し、施設や病院のイメージではなく生活の場としての認識をもって頂けるようにした。(4 件)
○個浴を檜にした事で、良い香りがするという事でリラックスでき喜ばれている。(2 件)
○リハビリに積極的に取り組めるような配置としている。(2 件)
○温泉による足湯場を設置 (1 件)
○全館換気にかかなりの気配りをして建築、設備をした結果臭気が漂わなく、来訪者からは好評であった。(1 件)
○職員の動線を良くするため回廊式になっている。浴室をフロア中心部に配置し各ユニットから行き来しやすいようにした。(1 件)
○プラズマクラスター等の設置により感染予防、除菌、消臭効果を実現できた。(1 件)
○施設内の口腔ケア室と口腔ケア委員会の取り組みにより誤嚥性肺炎を予防することに大きな効果を見せており、口腔機能向上をきっかけに生活動作の向上につながる取り組みを行っている。(1 件)
○特浴室内に天井式リフトを導入し介護職員や利用者が快適に過ごせるように配慮した。(1 件)
○ユニットや、パブリックスペースとの行ききりがしやすく、それぞれのフロアを自由に利用できている。(入居者同士の交流等) (1 件)
○居室内に洗面台を備えつけ、ご自身のペースで整容ができるようにした。(1 件)
○出来るだけ学校であった雰囲気を残すような処理を行い、落ち着きのある佇まいにした。(1 件)

○町のコミュニティセンターと隣接して設置し、地域との交流が積極的に行える立地条件で建設した。(1件)
○庭園があり、利用者様・ご家族一緒に散歩ができ、庭の造りが庭園風の為、四季の季節が味わえる。(1件)
○居室のトイレの戸を取り外しが簡単にでき、入所者が使用しやすいようにした。(1件)
○広い敷地を利用しすべてのユニットを1階に設置したため、上下に移動することがなく理想的なバリアフリー施設とした。(1件)
○敷地横に隣接する病院との連携が図れ、緊急時の対応や回診・通院が可能なことから安心感を与えられている。(1件)
○居室が広く、利用者が持参した物を置くスペースがある。(1件)
○敷地が広く、駐車台数も多く、冬場の融雪装置が整っている。また各ユニットのフロアや廊下などが広くとってある。(1件)
○各フロアの浴室の脱衣場、洗い場に床暖房が入っていて冬でも快適な入浴ができる。(1件)

2. ソフト面に関すること

①職員配置の考え方とその理由（回答数 64 件）

1 ユニットごとの固定配置（49 件）
○利用者との馴染みの関係を構築し、個別ケアに重点をおくため。（34 件）
○利用者の状況が継続して把握が可能。（15 件）
2 ユニットごとの固定配置（8 件）
○効率的な配置ができるため（4 件）
○夜勤体制は2 ユニートを1 名で対応するため、日中も同じ配置にしている。（4 件）
全体でのローテーション（4 件）
○入所者それぞれに特性があるので、職員全体でのローテーションの中で配置を考えている（4 件）
1 フロアごとの固定配置（3 件）
○職員の急な欠勤等に対応するため、様々な経験ができるようにしている。（3 件）

②食事提供方法について

食事提供の考え方（64 件）
○決められた時間帯の範囲で利用者の希望に応じて提供している。（衛生上の観点から概ね2 時間程度）（38 件）
○利用者のリズムで自由に提供している。（17 件）
○施設の方で設定した時間に提供している。（9 件）
食材費の考え方（64 件）
○全体で管理（56 件）
○一部ユニットで管理（7 件：複数回答あり）
・主食（2 件）
・汁物（0 件）
・主菜（0 件）
・副菜（0 件）
・おやつ（6 件）
○ユニットごとで管理（1 件）
料理方法（64 件）
○全てユニットで調理（2 件）
○一部ユニットで調理（23 件：複数回答あり）
・主食（20 件）
・汁物（09 件）
・主菜（00 件）
・副菜（00 件）
・おやつ（02 件）
○施設全体で調理（14 件）

○外部委託 (25 件)
クックチルシステム等の導入 (64 件)
導入・未導入 (回答数 64 件)
○導入 (12 件)
○未導入 (52 件)
使用頻度 (回答数 12 件)
○毎食 (8 件)
○一部 (4 件)
・朝食 (4 件)
・昼食 (0 件)
・夕食 (0 件)

③衛生管理体制について (回答数 49 件)

○衛生管理マニュアルに従い食品衛生管理を徹底し食中毒を予防、毎月検便・毎食の検食・保材 14 日以上を実施。(13 件)
○衛生管理委員会や感染対策委員会等により組織的に取り組んでいる。(8 件)
○機材や食器などの洗浄管理は工程表を使い食中毒などが起きない体制を作っている。(8 件)
○衛生チェック表を作成し、記録・点検を行っている。(4 件)
○保健所に依頼し、勉強会を開催している。(3 件)
○管理栄養士を中心に定期的な勉強会を行い、衛生管理の徹底に努めている。(3 件)
○外部の衛生管理業者に委託している。(2 件)
○冷蔵庫内に保管されている食材の賞味期限切れ等の点検 (委託調理員立会いの上、1 週間に 1 回程度) (2 件)
○隣接施設で調理をしているため、運搬用車両の衛生管理を徹底している。(1 件)
○食事運搬専用エレベーターを厨房内に設置して一般用と分離した。(1 件)
○毎年「手洗い講習会」を実施し、特殊な器具と薬剤を用いて、いつもの自分の洗い方ではいかに洗えてないかを知ってもらうようにしている。(1 件)
○調理してから 2 時間がたってしまった場合は廃棄とし、厨房で作り直したりユニットで簡単な食事を作り提供している。(1 件)
○調理場全体の清掃を行っている。(1 件)
○特別養護老人ホームの設備及び運営に関する基準に則る。(1 件)

④入浴利用について

ユニットごとの個浴の設置と利用頻度 (64 件)
○設置 (37 件)
○未設置 (27 件)
○1人当たりの利用頻度 (回/週)・・・平均 1.9 回
○1日当たりの利用頻度 (人/日)・・・平均 5.5 人
特浴の設置と利用頻度 (64 件)
○設置 (61 件)
○未設置 (3 件)
○設置数・・・平均 1.3 箇所
○1人当たりの利用頻度 (回/週)・・・平均 2.1 回
○1日当たりの利用頻度 (人/日)・・・平均 5.6 人

⑤従来型特養の運営を行い、新たにユニット型特養を整備して処遇上で 変化した点について (回答数 29 件)

○入居者と職員の関係が密接となり、コミュニケーションが頻繁に見られる。(10 件)
○毎日の生活の中で、ゆったりと支援できていることにより、入居者の表情が明るく 穏やかである。(9 件)
○ユニットケアを行うことで、一人ひとりの「自分らしい暮らし」が確保できる。(3 件)
○利用者の状態を細かく把握できるようになり、職員の責任意識が上昇した。(2 件)
○職員ひとりひとりが「真の個別処遇」とは何か?を考えるようになった。それまで は「個別処遇」とは言っているが、実は施設の決めた時間やスケジュールに合わせ た介護を行っていたことに気づいた。(1 件)
○現在の人員配置では実質、従来型の方が職員と利用者が接する時間は長い。運用面 で工夫が必要。(1 件)
○利用者⇄家族、利用者⇄職員、職員⇄家族等の関係が密接となり、信頼関係が構築 しやすい。ケアプランにきめ細やかな内容が立案され生活に反映されやすい。(1 件)
○認知症の軽い方同士であれば会話は可能である程度のレクも可能だが、寝たきりで 認知症が重く意思疎通不可の人にはあまりメリットが感じられない。(1 件)
○食堂 (リビング) と居室の動線も短くなり、リビングで過ごす時間が増えた。入浴 のために並ばなくても良くなった。(1 件)

3. その他

①施設のアピールポイント（回答数 59 件）

○季節感を味わっていただけるような行事（観桜会、ドライブ、花火大会、彼岸、餅つき等）を実施している。（25 件）
○気分転換・リフレッシュのための積極的な外出支援に取り組んでいる。（14 件）
○近隣の小学生とのふれあい交流により、稲作体験や昔遊び等を行っている。（4 件）
○同じ敷地内で障害福祉サービス事業所や保育所があり、その属性にとらわれることなく、空間を共有しながら生活を送れている。（2 件）
○利用者ごとの趣味に合わせたクラブ活動を実施している。（2 件）
○広い居室、使い慣れた家具の持ち込みも自由。個別入浴によるプライバシーの確保。家族間の交流が非常に盛ん。（2 件）
○環境に配慮した施設づくりとして、太陽熱エネルギーを利用し、給湯と床暖房を採用している。（1 件）
○在宅と同じような生活できるように職員の気配りがある。（1 件）
○歯科医・歯科衛生士による口腔ケア、指導のもと介護職員が行う口腔ケアに取り組んでいる。（1 件）
○障がい者施設で自家農場をもっているため、そこでの農作業を行っている。（1 件）
○ご利用者中心の個別ケアに取り組み、職員も将来入りたいと思える施設作りをしている。（1 件）
○私たちは、さくらの花びらのような温もりと家庭的な明るさを大切にしている。ご入居される方々の気持ちを尊重し、「生きがい」を持つ喜びを感じて頂けるよう支援している。（1 件）
○地域の声⇔利用者・家族の声により、地域と家族による施設の庭づくり（畑やお花作り）が進んでいる。（1 件）
○広々とした屋内。施設周辺は自然が豊富。景色が良い。（1 件）
○地域で活動しているボランティアの積極的な受け入れ。地域に住んでおられた方が入所される方が多く、また、職員も地域出身の方が多いため地域に密着した施設運営ができています。（1 件）

②職員のモチベーションを上げる為に実践していること（回答数 58 件）

○外部研修への参加や内部研修の実施を積極的に行い、スキルアップの向上に努めている。（20 件）
○職員の意欲や向上心等を給与・賞与・交付金に反映している。（7 件）
○個人面談時や施設長へのメール等により、職員からの意見・要望を吸い上げ、考慮・反映させるように取り組んでいる。（5 件）
○業務上の課題を検討・改善・解決する目的で委員会を設置し、横の連携を図っている。（4 件）
○資格取得の支援を行っている。（4 件）
○福利厚生事業として歓迎会・忘年会・職員旅行等を実施している。（4 件）
○事業所のリーダーや管理者との面接機会を設け、現場での悩みや希望を相談できる体制をとっている。（3 件）

○買い物ツアー等外出支援を取り入れることにより、常に施設内での業務だけでなく場所が変わることによる気分転換に配慮している。(2件)
○ユニットリーダーに業務権限やユニット内の予算の活用権限を委譲することで、やりがいを持たせるようにしている。(2件)
○経営努力により、余裕をもった人員配置を行い、職員の負担軽減に取り組んでいる。(2件)
○職員個々の自己評価に基づき育成面接を実施し、業務遂行上の課題を明確にしている。(1件)
○「ユニットケアとは?」「入居者の生活をどのように支えてゆけばよいのか?」と、常に介護職員に考えさせながら実践させ、向上心をあおっている。(1件)
○施設長自らが定期的に現場に入り、入居者、職員の状態を把握できるように努めている。(1件)
○月に1度職員全体会議を開催し、同じ方向を向いた話し合いをすることで、職員の精神的安定やサービスの質向上を図っている。(1件)
○永年勤続職員(10年)に対し、表彰を行う。(1件)

③協力病院との契約事項 (回答数 38 件)

○入居者の病状の急変等緊急時の受け入れ (20件)
○定期的な健康相談の実施 (6件)
○入院が必要な入居者の優先受け入れ (6件)
○定期的な健康診断の実施 (3件)
○定期往診の実施 (2件)
○入居者の口腔ケアの支援 (1件)

④個室面積 (回答数 49 件)

○トイレなどが居室に組み込まれていない、四角い部屋ならこの程度 (13㎡) でよい。(現在内法 14㎡程度だが、もう少し小さくても可と感じる。)(1件)
○入居者の希望に応じた家具の配置や車椅子の動線の確保から、8畳ほど (13~14㎡) のスペースが必要である。(14件)
○ベッドの設置・介護スペースの確保のほか家具の持ち込み等に対応する為には十分なスペース (14~15㎡) が必要である。(15件)
○ベッドの自由な配置や入居者の希望の家具の配置、車いすの安全通行のほか、来客時の対応を考えるとこの程度の面積 (15~16㎡) が必要である。(13件)
○身体状況に応じてベッドの配置を変更したり、車いすでの通行にはちょうど良い。(16㎡以上) ご家族の面会があってもゆったり過ごすことができ、泊まることも可能なスペースである。(6件)